

令和4年12月10日
作成：風早北部地域ふるさと協議会
防犯防災部

災害時の避難行動を考える講習会実施結果（概要）

- ◆ 開催日時：令和4年11月26日(土) 午前9時30分～午前11時30分
- ◆ 会 場：沼南近隣センター1階大ホール
- ◆ 出席者：井堀内町会②・追花町会②・柏東パークホームズ管理組合・沼南エリカマンション管理組合②・舟戸町会・緑台町会・塚崎区②・塚崎二丁目自治会③・塚崎三丁目自治会②・グランシティ大津ヶ丘団地管理組合②・塚崎パークヴィラ自治会・リバティーヒル柏自治会・手賀の杜自治会②・大津ヶ丘中学校、以上14団体23人、一般住民9人／計32人…○数字は2名以上の参加団体の参加者数
- ◆ 講師：柏市防災研究会 松清智洋氏

1. 防犯防災部長冒頭あいさつ（発言要旨は会場配布の別紙を参照）

2. 講習会内容

(1) 講義内容《詳細は配付資料スライドのとおり》

- ✓ 過去に大きな風水害被災のない柏市民にとっては大規模地震被害への警戒が必要
- ✓ 災害支援ネットワークちば（CVOAD）の紹介
- ✓ 最近の災害被害につき画像映像（著作権の関係で会場投影のみで会議資料外）を交えて紹介し、その中で近年の風水害の特徴や傾向について説明
- ✓ 避難スイッチ（一般市民対象）と防災スイッチ（地域団体対象）についての説明
- ✓ 災害対応を自分事としてとらえ、情報も主体的に収集、把握することが基本（他を可能な限り当てにしない）
- ✓ 気象関係の情報は「気象庁（あなたの街の防災情報）」、その他、柏市の災害情報源を紹介（災害警戒レベルの解説、柏市地域別防災カルテの案内）後者は防災関連施設、震度予測、液状化予測、二次災

害となる火災での延焼や家屋の倒壊予測、水害や土砂災害予測が地図上で可視化されており有用（風早北部地域内の水害被害予測を一例として紹介）

- ✓ 避難スイッチ発動のための日頃からの行動の紹介
- ✓ 避難スイッチに必要な情報の紹介
- ✓ 地域で取組む防災スイッチの紹介
- ✓ 配布の白地図を使って自宅（勤務地）と避難場所の間に潜むリスクの洗い出し
- ✓ 避難場所は一か所だけでない（避難場所も必ずしも安全でない可能性を考える）→多様化する避難形態、避難生活の説明
- ✓ 建物被災状況チェックシート（見本）の紹介
- ✓ 災害発生時に二段階避難を考える（一時〈いつとき〉避難所の設定）
- ✓ マイタイムライン策定の案内（時間があれば平時に家族や職場の仲間で話し合い、策定しておくことが望ましい）
- ✓ 主催者から、自宅から避難所までの危険箇所の有無を実際の現場で確認して欲しい。来年度も同様の講座（講習会）の実施を検討したい。

（2）質疑応答

【会場質問】災害時対応医療機関が不足する問題をどう考えるか

【講師回答】当地域以外でも、43万市民の災害時に対応する医療規模は何処も足りないと理解する。エリアで医療体制を考えるべきと思う。市医師会等での協議を進めており。その結果の公表に注視したい。

【会場質問】狭隘化する避難場所対策として、代替避難施設対象にサロンや宗教施設などが考えられるが、行政としてこうした施設や団体への働きかけは進められているのか。

【講師回答】行政レベルでは社会福祉協議会で災害ボランティアセンターの設置はあるが、全国規模の災害ボランティア団体へのアプローチは行われていない。過去の災害では、逆に災害ボランティア団体が独自の災害支援ネットワークを駆使して地方自治体にアプローチしてきた事例はある。

【会場質問】当地域内にも高齢者施設が少なくない。こうした施設に

居住する住民への災害時のケアを地域住民で行うべきかどうか。

【講師回答】現状では高齢者施設管理責任者が自ら避難対策を講じるべきものと考え、地域団体は一般の地域住民の安全確保を最優先すべきである。

(3) その他「アンケート票回収結果」について（有効参加者30名）

問1：本講習会を受講しての感想

「ためになった」28票（無回答2票）

「ためにならなかった」「わからない」の回答は0票

問2：避難すべきタイミングを知る手段は？

「自分や同居家族で情報を把握する」27票

「ご近所どうして連絡を取り合う」5票

「地域団体で対応」8票

「行政・消防など公的機関から通報があると思う」4票

問3：地域住民による防災訓練に今後も参加しますか？

「参加したい」23票

「参加は難しいが机上学習なら参加したい」4票

「参加は難しい」3票（理由は全て「時間がない」）

以 上